

にし がわら
西川原古墳

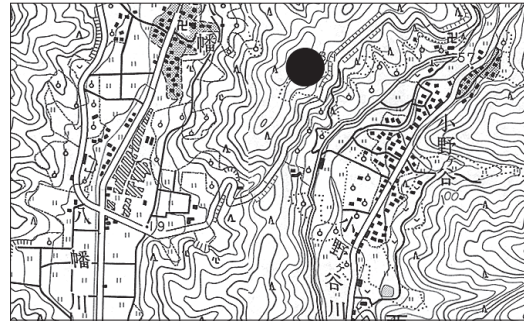
所在地 幡豆郡幡豆町大字西幡豆西川原 31-39

調査理由 内陸用地造成

調査期間 平成11年10月～12月

調査面積 500 m²

担当者 木下 一・池本正明・竹内 睦



調査地点 (1/2.5 万「吉田・蒲郡」)

調査の経過 調査は内陸用地造成に伴う事前調査として、愛知県企業庁より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成11年10月より12月にかけて実施した。調査面積は500 m²で、1基の古墳を発掘調査した。

調査の概要 西川原古墳は幡豆郡幡豆町大字西幡豆の北部の山林に所在する。標高148.12 mの三角点の南斜面に当たり、渥美半島から知多半島を一望できる場所に立地している。過去に幾度か掘削された形跡があり、表土には石室の一部と思われる石と石棺の一部が地域の信仰の対象として祀られていた。石室の底辺部が集石の直下約1.5 mから検出され、岩盤をくり抜く形で作られた横穴式石室の円墳と考えられる。近辺の土地は結晶片岩の岩盤であるが、石棺は佐久島の砂岩を使った組み合わせ式箱式石棺である。遺物は石室からは出土されなかったが、石室の前面、表土の約20 cm下から若干の土器、銅製品が出土した。7世紀後半の古墳であると考えられる。

石室の規模は、幅2 m、長さ7 m、石棺の長さは明らかでないが、幅47 cmと、7世紀後半ではかなりの規模である。暗文土師器と銚帯が出土していることや立地条件を考え合わせると、埋葬者がかなりの勢力をもっていた可能性が強い。古墳時代から律令期へといった過渡期の様子が偲ばれる。

(竹内 睦)



空中写真



調査区全景